

緑の風

JR東労組 NEWS



JR東労組ホームページ

East Japan Railway Workers' Union

2024年8月12日 No.15



日航機墜落事故から39年

1985年8月12日、帰省する方々などを乗せた日本航空123便が群馬県の「御巣鷹の尾根」に墜落、520名もの方々が亡くなりました。ご冥福をお祈りします。一方、今年1月の羽田空港での衝突事故では日航機側の乗客・乗員379名全員が脱出できました。訓練の積み重ねと、搭乗毎に行う事前打合せなどが的確な判断につながったと言われています。

JR東日本ではどうでしょうか。新幹線の架線垂下などの輸送障害に加え、触車(未遂)・感電・墜落の三大労災が相次ぎ、協力会社社員の死亡事故まで発生しました。しかし職場では「融合と連携」による多能化が進み、あまりの忙しさに事故を他人事を感じてしまうとも言われています。

要員不足で訓練を延期せざるを得なかったり、慢性的な超勤や休日出勤で心身が休まらない現実、睡眠不足になりがちな職場環境が改善されない状態では、注意力や緊急時の対応力が低下することは明らかです。安全な公共交通機関をつくるにはどうすべきか、議論を深めましょう。

**職場で感じる「違和感」を放置せず、
JR東労組で「職場を良くするための提言」を発信しよう！**